

おめでとうございます 第7回危険業務従事者叙勲

危険性の高い業務に従事し、身を呈して社会に貢献したかたをたたえるものです。

消防での最初の仕事は、消防車両の運転でした。当時十和田村には消防車が1台しかなく、道も補装されていなかったため、火事現場に無事にたどり着くことがわたしの大きな使命でした。

心に一番今も残っている事件は、平成2年10月2日猿倉沢での遭難事故の救助です。高さ150メートルの崖から滑り落ちた遭難者を救助する事故で、皆と連携し、細心の注意を払い、無事救助することができました。このようにできたのも素晴らしい先輩・後輩がいたからです。



さわはし こういち
澤橋 孝市さん
(75歳・奥瀬字中平)
❖ **瑞宝双光章** ❖
消防功労
元県十和田地区消防事務組合消防司令長

今までの警察人生において主に交通事故処理に携わってきました。わたしは特に長年の経験、的確な判断力、根気強さが必要な重大なひき逃げ事件(死亡事故など)に関わる事が多く、そのほとんどを解決してきました。

ひき逃げは絶対に許さない、許してはならないという思い、残された家族の心の痛みを自分のことのように感じ、昼夜問わず頑張ってきました。そうしてこれたのも、今日まで陰で支えてくれた妻の存在があったからと考えています。



さとう のぶひこ
佐藤 信彦さん
(76歳・東十三番町)
❖ **瑞宝单光章** ❖
警察功労
元青森県警部

今まで海上自衛隊員として昼夜を問わず仕事をしてきました。船の上で、海の中で、業務に徹する毎日でしたが、常に危険と隣り合わせの仕事でしたので、細心の注意を払い、良い先輩と同僚、後輩に恵まれ、連帯を大切に頑張ってきました。

潜水士の資格がありますので、人名救助や海底調査の業務もありました。わたしが今こうして健康でいられるのは、留守を支えてくれた妻と子どもたちの存在があったからだと思えます。



にいどめ まさはる
新留 正治さん
(61歳・西五番町)
❖ **瑞宝单光章** ❖
防衛功労
元三等海尉

まちのほっと ニュース

まちの出来事や楽しい話題など、皆さんからの情報をお待ちしています。
総務課 文書広報係 ☎5111 内線155・156
FAX5100

交通安全を願って15年

4月9日、藤坂小学校で入学式がありました。その式の中で、新1年生38人が交通事故に遭わないように願い、その年の干支のマスコットを贈り続けている小山田英子さん。今年で15年目となります。交通量の多い県道が近くにあることから、事故に遭わないようにマスコットとともに地域の子どもたちを見守り続けています。



小山田英子さん



イノシシのマスコット
ランドセルの横にぶら下げます

青森県立三本木高等学校附属中学校開校

「6年間を見通した計画的・継続的な指導をととして、真の国際人として未来社会の進展に貢献できる人材を育てる」を教育目標に、4月7日、青森県立三本木高等学校附属中学校が開校しました。大きな夢に向かって、新入生80人は緊張した面持ちで式を迎えました。



開校式・入学式の様子



1番バス到来



十和田湖中学校の皆さん



十和田湖観光婦人部の皆さん

観光シーズンの幕開け

4月1日、雪に閉ざされていた青森市と当市を結ぶ国道103号(八甲田・十和田ゴールドライン)が開通し、招待客や観光客を乗せた1番バスが十和田湖温泉郷に到着しました。温泉郷では、観光協会のかたや市民が小旗を振って歓迎しました。

その後バスが十和田湖畔子ノ口に到着すると、観光客は十和田湖遊覧船に乗り込み、十和田湖中学校の生徒に見送られ、休屋へ向かいました。休屋では十和田湖小学校の子どもたちや十和田湖観光婦人部の皆さん、地元関係者が出迎え、甘酒を振る舞いました。旅行者は温かいもてなしに思わず顔がほころんでいました。



十和田湖小学校の子どもたち

道の駅とわだに植樹しました

昭和45年に結成し、平成18年11月で活動を終えた十和田簡易保険旅行友の会第1班から5班の代表のかたが、3月にヤマモミジとエゴノキを植樹しました。毎年旅行を楽しむ会でしたが、その活動資金の残りで最後に思い出を込めた記念植樹を行いました。

会員の皆さんには、長きにわたる活動、ほんとうにありがとうございました。



記念樹の前で

十和田市発 全日本学生児童発明くふう展入選者決定!

第65回全日本学生児童発明くふう展が東京の日本橋三越本店で3月6日~11日に開催されました。十和田市からは2人の受賞者がありました。

「ハイブリット発電・自転車用デイ・ライト」南小学校5年生(現同校6年生)塚原敬之佑さんと「光るチャイム」三本木小学校6年生(現県立三本木高等学校附属中学校1年生)高橋隼一郎さんです。2人にインタビューしました。



塚原敬之佑さんと作品



高橋隼一郎さんと作品



3年前、台風の激しい風をうまく電力化できないかと思い、試作品を作り続けてきました。この作品は自転車の前のかごに入れて使用します。普通のモーターでは小さな風で電気を作りだすことができないので、ソーラーラジコン用のモーターを使っています。

4年生まで参加していた十和田市少年少女発明クラブでの創作活動が今回の入賞につながったと思います。

この作品は、下についているひもをゆらし鉄板に当てることで、ひもについているネジがスイッチとなり回路に電流が流れます。そのことを利用した「音と光」で来客を知らせるチャイムです。また、上部の豆電球が光るため、お年寄りや耳の遠い人でも、来客に気づくことができます。一人暮らしのお年寄りのかたがたに活用していただけるといいと思います。